

第3回札幌恵庭自転車道線恵庭工区延伸ルート検討委員会【概要版】

【開催日時】平成22年7月22日(木)9:30～11:30

【開催場所】恵庭市役所 3階 第1委員会室

【出席者】

〔委員〕泉谷清、喜多昌幸、内田信一、鏡貢、川向康文、木内克昌、竹内栄、
丹伊田哲也、掛水美枝子、永井晋二、久村隆一、平野哲雄

(欠席委員：藤本治聖)

〔アドバイザー〕岸邦宏(北海道大学大学院工学研究院准教授)

〔ワザバー〕松尾光博(北海道空知総合振興局札幌建設管理部千歳出張所次長)

佐伯伸基(" 道路係長)

大坪順一(" 道路係主任)

事務局 寺崎博裕(企画振興部長)、黒牧智器(都市計画課長)、

平井誠(同主査)、大嶋克幸(同主査)

〔傍聴者〕4名

【会議概要】

1. 開 会 (司会)黒牧課長

2. 挨拶 寺崎部長

3. 議 事

(1) ルート案の検討について(全体討議)

・まちの中を通るルート

・郊外部を巡るルート

(2) 整備の方針について(ワークショップ)

(3) 発表・講評

4. その他

5. 閉 会

ルート案の検討(全体討議)意見交換要旨

意見分類	意見要旨
ルート	・ 「北広島と恵庭は違う」とは言うものの、やがては札幌～千歳の一連のルートになるとすれば、恵庭市内で多数の交差点・信号での停止があるのは好ましくない。 ・ 札幌市内のように、できるだけアンダーパスを設ければ良いのではないか。 ・ まちなか・郊外ルートともに、恵庭らしさを出していくことが大事。子供たちが通りたくなること。地域の再発見のルート。通ることが心地よいこと。 ・ 札幌～北広島は一直線なので（交差点が少なく一息で来られるので）かえって恵庭はまちなかを通ることが恵庭らしさとなり得る。田舎らしさを感じられるルートもよい。 ・ 市の総合計画でも花のまち恵庭を観光のメインにしようとしている。自転車道も結びつけて、まちづくりの起爆剤となり得るルートを。市民も利用しやすく、市民活動もしやすい。 ・ 自分は恵み野北の住民であるが、まちなかルートが良い。一輪車が走れないルートは、車椅子も走れない。生活道路を歩行者と自転車を分けて安全に通行できるように。地域の高齢化が顕著。高齢者も車椅子も使える生活ルートがよい。 市の財政も厳しいのでこの機会に自転車道の予算でまちづくりの整備を。 ・ サイクリストとしては、快適に走れることを望むが、一市民としては地域を結ぶまちなかを通れるほうがよい。できるだけ快適さを望めるルート。 ・ 自転車の使い方は、各々違う。アンダーパスは予算的に無理だろう。まちなか、郊外どっちもいい。折衷案もあるのでは。 ・ 年をとってくると快適（快速）さは求めない。信号で止まりつつキョロキョロ周りを見ながらゆっくり走ったり歩いたりできるのがよい。車に邪魔されないことが大事。サイクリストとしては、側道を整備してほしい。 ・ 折衷案はできないだろうか。農村風景と街の両方。西島松の北のルートは、景色がきれいで捨てがたい。 ・ サイクリスト側の意見だったが、恵み野も良いと思うようになった。ただ恵庭南高の自転車通学の状況を見ると、事故の危険もあり盤尻側も大事。 ・ 現生活道路をどのように整備してルート化するのか、イメージが湧かない。自転車だけでなく、ランニングや歩くスキーでの活用も考えられるため、活用方法を踏まえてルートを考えるべきでは。利活用については次回。
まとめ	・ サイクリングロードをまちづくりの契機にというのは意見が一致している。盤尻方向も良いと思うが、経由地や終点の制約から考えると、派生的なルートとして位置づけても良いのではないか。 ・ まちなかルートということで方針の一致をみたと思う。 ・ できるだけ多くの人に使ってもらえることが重要。国道36号も「山速里鈍（郊外は快速に通行し、市街地はゆっくり通る）」という設計思想で作られた。自転車道も区間によって違って良い。

整備方針(ワークショップ)意見交換要旨 (Aグループ)

意見分類	意見要旨
整備方針	「市民」が利用するときのイメージ ・島松住民が恵庭方向へアクセスする際に利用されるだろう。 ・ウォーキングの利用もあるのでは(島松) ・高齢者の散歩や車椅子の利用もあるのでは。 ・恵み野駅から北の団地環状通では恵庭北高の生徒など、高校生の利用が多いだろう。 「市民以外」が利用するときのイメージ ・“田舎らしさ”を体感する(島松) ・JR 千歳線の西側に道道や国道が位置するため、JR の東側の島松地域を知らない人も多い。『島松再発見』のルートになる。 「整備の姿」のアイデア ・恵み野周辺にステーションを設置。 ・軟石の活用(ステーション・舗装)。島松らしさ。腰掛けるベンチ。 ・地域の売り“木と花”をアピールする。足元に花を植えることで、「お出迎え」とする。 ・柏木川では、堤防も兼ねてサイクリングロードを整備できないだろうか。 ・市街地と田園の境界(島松)を通行することで、両方の景観を楽しむことができる。市街地の中心を通過しなくてもよいのでは。 ・まちなかに引き込む仕掛け。 ・恵み野の図書館前の団地中央通は歩道が広いので歩道上で整備が可能だろう。 ・道路が広いので低コストで整備可。 ・舗装を色分けするなど自転車道として明示されれば分かり易い。 ・沿道に並木を！

整備方針(ワークショップ)意見交換要旨 (Bグループ)

意見分類	意見要旨
整備方針	「市民」「市民以外」が利用するときのイメージ ・生活道路が充実。道として機能しているので、郊外とまちなかを通るルートが良い。 ・西島松北交流公園は通るべき。景色は最高。 ・道道の外側にルートを作れば冬の利用も可能。重複は必要ないのでは。 ・まち以外を見せたい。恵庭の特徴を。 ・川の方を走る。信号なし。冬の利用もあり。 ・8の字型のルートを設定してはどうか。 ・文教大の側の道(恵庭駅 大学)は通さなくても良いのでは。それより川とか。 ・郷土資料館をどうするか。 ・歩行者と自転車利用者 - しっかり分離する。歩道と自転車道を分けると「安全」。 将来の事を考えると駅とつながる。 ・生活道路に利用し、歩行者と自転車利用者を分離した構造。 ・恵庭をアピールできる道づくり ・スポーツと健康の道づくり。 ・「恵庭オアシス道路」車に邪魔にされないルート。 ・歩くスキー。近畿大付近で利用。吹雪くとコースが消える。歩くスキー大会は共進会場でやっている。近大は小さいので飽きてしまう。 「整備の姿」のアイディア ・地図・サインがあると、利用しやすい。 ・レクリエーション。冬は、歩くスキーコースに活用。 ・自転車の駅があると良い。設置が難しければ道の駅で駐輪場。 ・路側帯は、駐車車両があるので、専用レーンがあると良い。自転車利用者も安全に走れるのではないかな。
その他	・立体交差の整備は可能か。 立体交差の全箇所整備は難しい。 ・緑石が高い。今は平らなものを使っている。低くしたい。 緑石は導水、安全性が目的で設置している。